



# 報告書

No. 02-01775

依頼者 住 所：和泉市唐国町 1-5-49  
会社名（氏名）：株式会社 RD ファクトリー 様

試料名（依頼者の申出による呼称）

マイクロクリーナー マイルド

1点

本所に提出された試料につき試験した結果を以下のとおり報告いたします。

平成 30 年 10 月 9 日

地方独立行政法人

大阪産業技術研究所理事長



## 試験項目

微生物試験

オーダーメイド対応（技術料）

## ○試験方法

### ・試験菌液の調製

*Staphylococcus aureus* ATCC 6538P (黄色ブドウ球菌) を Nutrient Broth に植菌し、24 時間 35 °C で振盪培養した。培養液から遠心分離で集菌したものを濁度 (OD<sub>600</sub>) がおよそ 1.0 になるように滅菌水に懸濁したのち、Nutrient Broth で 100 倍希釈したものを *S. aureus* 懸濁液とした。

### ・抗菌性試験

提出された試料を滅菌水で 2, 5, 8, 10, 12, 15, 20 倍に希釈し、各希釈液を 96 ウェルマイクロプレートに 20 μl ずつ加えた。さらに 160 μl の Nutrient Broth と 20 μl の *S. aureus* 懸濁液を各ウェルに添加し、35 °C で旋回振盪しながら 24 時間培養した。各条件で 3 ウェルずつ試験を行い、24 時間後の培養液が 3 ウェルすべてで濁らない最小の試料濃度を最小生育阻止濃度とした。

## ○結果

試験したすべての希釈倍率において、24 時間後の *S. aureus* の生育は確認できなかった。このため、最も希釈倍率の高い 20 倍希釈液を用いた結果（終濃度 200 倍希釈）を採用した。

最小生育阻止濃度 : 0.5%以下

(次頁に続く)

2枚の内 1枚目

試験終了直後に撮影したマイクロプレートの写真を図1に示す。コントロールは試料の代わりに滅菌水を添加したウェルを示している。コントロールのウェルだけが *S. aureus* の生育によって濁っており、その他のウェルは透明なままであった。

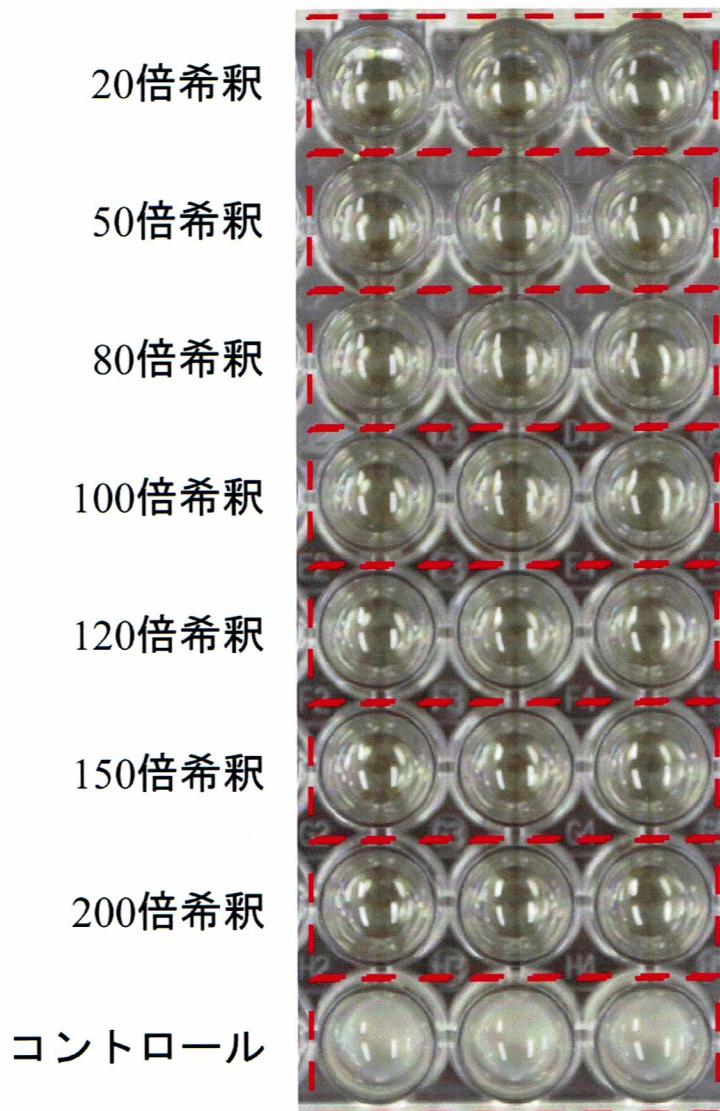


図1 最小生育阻止濃度測定試験のマイクロプレートの写真

—以 上—